

ラベンダー通信 Vol.3

編集・発行 PTA広報委員会



3年生力作の垂れ幕 テーマは「無限の力」：建学祭(中等部)



長崎、佐賀、福岡をまわった研修旅行。吉野ヶ里遺跡では勾玉作りに挑戦：3年生11月 研修旅行(中等部)



中高の希望者で参加 夏休みの臨海実験所での研修
寿都の東海大学北海道臨海実験所にて



沖縄コースで大好評だったマリンスポーツ体験：2年生10月 研修旅行(高校)



9月 円山陸上競技場にて：体育大会(高校)



各班毎にプレゼンテーション：1年生 現代文明論の授業(高校)

※ラベンダーの写真は東海大学札幌キャンパスに咲いたものです。

昨年度より PTA専門委員会がスタート

PTA専門委員会活動内容



継続は力なり

東海大学附属第四高等学校・中等部
PTA会長 沖 弘文

いよいよ私の9年間のPTA活動も最後となりました。最後に会長を2年務めさせて頂きありがとうございました。この間、PTAに専門委員会が発足し、活発に活動が行われていることが、最大の思い出となりました。

ただPTAという名前だけではなく、何か出来ることはないか、という模索の中で出来た専門委員会。そして広報委員会によるこの素晴らしい「ラベンダー通信」も第3号の発刊となりました。

「全ては子ども達のために」という思いをこれからも私自身の心の中で常に持ち続け、東海大四の一ファンとしてこれからも応援していきたいと思っています。

今までの皆様方の活動に感謝し、今後のPTA活動ならびに各委員会の益々の発展を祈念致しますとともに、今後も東海大四PTAをなにとぞよろしくお願い申し上げます。

文化委員会

… 広報担当 木下 雅美

今年度の文化委員会の活動はインフルエンザの蔓延する中で講演会等の企画を実行するのは難しいと判断し、保護者の皆様に「子ども達に読ませたい本、読んでほしい本」を募集し、図書館の床暖の部分に『PTA文庫』専用の本棚を置き、子ども達に直接、文化活動を提供する活動を行うことになりました。沢山の推薦も集まり、図書館の児玉さんに御協力を頂き、在庫の確認、追加の推薦図書を選定を経て、予算の中より購入いたしました。活字離れの今、図書の選定を



購入がこれからなので、とりあえずの本を写真にしています。



している中で、私達親の世代でも読んでことのない本が数多くありました。用事で学校に来て、待ち時間などがございましたら、是非一度、静かな図書館で『PTA文庫』の本を手にとって下さい。

厚生委員会

… 広報担当 鈴木宇多子

エコキャップ運動にみなさん日頃からご協力いただきありがとうございます。キャップは、ポリオワクチンとなり、CO2削減に大いに役立っています。

また今年度は新たな取り組みとして、家庭でお料理に使った油を回収し、バイオディーゼル燃料に精製します。車の燃料として使っている学校もあるとのこと。

廃食用油の入ったペットボトルはちょっと重いかもしれませんが、生徒用、職員用玄関どちらの回収箱にでもお持ち下さる様お願いします。

さらに12月には食堂のメニューを試食し、検討しましたので、今後のあり方に反映していきたいと思えます。



大量に集まったペットボトルキャップ

広報委員会

… 広報担当 鈴木富美枝

広報委員会は「ラベンダー通信」Vol.3の発行に向け今年度も活動しました。創刊以来、表紙から各ページ全てにテーマを決め編集・構成をページごとに数名の担当者を割り振り、無理のない形での活動を心がけて作成しています。また、学校ホームページから入るとPTAのページがあり、PTA各委員会の活動紹介もおこなっています。

広報委員会は保護者と生徒のみなさんに楽しみながら読んでいただけるものを今後も心がけて作成していきたいと考えております。

過去に小学校や中学校で広報誌作りにかかわり、何度も学校に足を運びたいへん苦労した……という経験のある方もいると思います。私も小学校まではそうでした。

四高のPTA活動は子どもを通わせている保護者のみなさんが気軽に参加できるコミュニケーションの場であると思います。活動も年に3

回程度で、ほとんど負担はありません。次年度もたくさん保護者の皆様に広報誌作りを通してPTA活動にご参加いただけることを願っております。



四高・四中を支える ボイラーマン 藤田さん 突撃レポート

「なかなか知ることのできない四高」の一面にスポットをあて、学校を支えてくださるスタッフの皆さんを紹介するコーナー。今回は四高のボイラーを22年管理し続ける藤田さんにインタビューをお願いしました。



生徒をいつも暖かく見守ってしてくれる

♥ 四高のグラン・パ (おじいちゃん) ♥
藤田さんのプロフィール

- ★ 昭11年 1月19日北見生まれの山羊座
血液型はO型です
 - ★ 趣味はテレビでスポーツ観戦「野球といえばジャイアンツ♪長島&原ファンです。あとは囲碁も好き」
 - ★ お酒はぬるめの燗が好き！苦手な物は長ネギかな塩分控えめを心がけています？
- 昭和36年結婚。62年にJR(旧国鉄)網走を退職後、四高へ。校内にご家族で居住しながらの勤務となりました。
今は二人の息子さん夫婦と6人のお孫さんに囲まれ、穏やかに幸せな毎日を送っていらっしゃいます。

四高生にメッセージ！

今は人間関係が難しい時代だから
友達との繋がりを大事にして欲しい。

みんな仲良く！

P.S. ちゃんと歩道を歩こうね。
冬は特に道路が狭くて危ないからね！



藤田さんの1日

早朝7時、住み込み勤務時代からの習慣？か、今でもこの時間に中央区から出勤。玄関の鍵を開けて、新聞の受け取り・仕分け(職員室や図書室へ)から1日がスタート。

10月中旬頃からは暖房用のボイラー作業も入ります。冬季間は1日3回バルブを操作して、暖かいスチームを校舎内に送っているんですよ。四高が快適に過ごせるのは藤田さんのおかげです☆

玄関清掃の後は職員との打ち合わせなど。そして除雪作業が入ります(今年は雪が多くて大変！)。昼休みを挟んでボイラーの管理などなど…夏は草刈りなどもやってくださっています。通常は夕方の17時ごろまでに勤務が終わります。ありがとう藤田さん(´_`)v



ボイラー室の横には
今も当時のままに
藤田さん一家が住んでいた
部屋が残っています！

四高との22年…思い出がいっぱい

周辺の景色も変わりましたが、当時はキツネやヘビがよく出ていました。最近は少なくなりましたね～。残って遊んで(?)いる生徒さん達に遅くなるから帰るように声かけしたり、やんちゃしている生徒さんに注意することもありましたが、注意されれば皆素直に「はい」と返事を返してくる。素直で明るい四高の生徒さんの気質は今も昔も変わっていないと思いますね。(藤田さん談)

実は藤田さんのお二人の息子さんのご長男は四高野球部OBで、甲子園にも出場しているんですよ！(現在はJT・日本たばこに勤務されています)

藤田さんと共に、奥様の孝子さんも四高の食堂・売店に勤務され、生徒達のアイドル的存在として大人気となりました。そのハキハキとした明るさを慕う生徒はとても多く、2000年に孝子さんが亡くなられた時には生徒から何枚もの寄せ書きが贈られたそうです。

2002年には藤田さんが脳梗塞でリハビリを経験され、それを機会に住み込み勤務から、日中の勤務へと勤務体制も変更されました。現在は片側の視力が極端に低いので、段差が苦手との事です。

今までを振り返って「職員の方々にお世話になりながら、22年無事に過ごせた事が幸せです」とのお言葉が。

まさに寝食を共にしながら四高と共に歩いて頂いた藤田さん。いつまでもお元気で、そしてこれからも暖かく見守り、支えてください。どうぞよろしくお願ひいたします！

卒業生インタビュー

各界で活躍している卒業生を紹介

読売日本交響楽団首席トロンボーン奏者

くわ た あきら
楽田 晃

昭和45年生まれ
23期生



プロフィール

12歳からトロンボーンを始め、当時から吹奏楽で有名だった東海大四高校に入学しました。入学後は吹奏楽部の部活に集中しました。卒業後は武蔵野音楽大学に進学し、3年在学中に新日本フィルハーモニー交響楽団のオーディションに合格。5年間に在籍後、読売日本交響楽団に首席奏者として移籍しました。

東海大四高校吹奏楽部と共にソロCD「COLORS」をリリースしています。

Q 東海大四ではどのような高校生活でしたか？

吹奏楽部の部活動はたいへん厳しいもので、高校時代は部活一筋の高校生活でした。しかし、みんなで目指した全国大会金賞や、定期演奏会など達成感があり、今では楽しかった思い出です。

Q 後輩の中高生に一言

人生の中で一度しかない中学・高校生活です。しっかり楽しみ、充実した生活を送ってください。

★インタビューを終えて★

ご自身のトロンボーン奏者としての活動の他、武蔵野音大、桐朋学園大で非常勤講師を勤められる楽田さん。お忙しい中、快くインタビューに応じていただき、素晴らしい人間性を感じました。



上段、一番右端の方が楽田さんです。その下はNHK交響楽団首席トロンボーン奏者の新田幹生さんです。

(株)土屋ホーム スキー部(選手兼任監督)

か さい のりあき
葛西 紀明

昭和47年生まれ
25期生



プロフィール

もともとスポーツ大好き少年の葛西さんは上川郡下川町生まれ。小学校3年のときに友だちに誘われてスキーを始めました。ジャンプで最初に飛んだのは5メートルでしたが、そのときの感動が葛西さんをジャンプの道に。中学3年のとき大倉山で開かれた宮様大会で、中学生は出場資格がなかったためテストジャンパーとして参加。優勝者を上回る記録を出して「ジャンプ会の新星」として大きな話題となりました。四高卒業後は(株)地崎工業、(株)マイカルを経て2001年に現(株)土屋ホーム入社。数々の大会で活躍するとともに、2010年バンクーバー五輪で冬季五輪日本人初の6回目の出場を果たしました。

Q どんな四高生でしたか？

体育コースで入学し、大会や海外遠征などで学校にいないことも多かったのですが、学校に来ているときは午前中は授業でノートを取り、午後からはサインの練習をしていました。寮生活も楽しかったですよ。いろいろ規

律や規則もありましたが、それが社会に出てから今もとても役に立っています。

Q ここまでジャンプを続けてこられたのは？

一度ジャンプで転倒し、飛ぶのが怖くなった時期がありましたが、先輩の原田選手や他の選手が金メダルを取っているのに、自分が取れないのが悔しかった。その悔しさをバネに自分を励まし、10年かかりましたが恐怖心を克服しました。負けず嫌いな性格なので、オリンピックという世界一の大会で金メダルを取りたいという強い思いが自分を支えてきたと思います。

Q 今の四高生にひとこと

好きな言葉は「努力」。努力すれば必ず実になります。夢や目標があれば諦めずに挑戦し続けてください。

・編集後記・

手探りではじめた『ラベンダー通信』もついに3号が出るまでになりました。

取材でいろいろな方とお会いできて、改めて四高に対する熱い思いに触られることが、私たちにとってのやりがいであり楽しみです。

広報委員会は希望者の集まりです。来年度もみなさんどうぞ一緒に楽しくやりましょう。

編集スタッフ／広報委員一同・松木先生
印刷／株式会社 エーシーピー